



## 2022 北京冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の会場紹介 ～延慶オリンピック公園より～

(一財)自治体国際化協会北京事務所 元所長補佐 羽根 実咲 (長野県派遣)

### コロナ禍で行われた 2022 北京冬季 オリンピック・パラリンピック競技大会

2022 北京冬季オリンピック・パラリンピック競技大会 (2022 北京冬季オリパラ) は中国国内でゼロコロナ政策が厳しく運用されていた 2022 年 2 月から 3 月の間に開催されました。一般参観者へのチケット販売はなく、選手やマスコミ、限られた関係者のみの参加が許された完全バブル方式での開催

となりましたが、前回大会である 2018 年の平昌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会から 7 種目増え、過去最大の種目数となる 109 種目 15 競技が執り行われ、大いに盛り上がりました。



大会を盛り上げたマスコットの  
ビンドゥンドゥンとシュエロン  
ロンも人気を博しました

2022 北京冬季オリパラの競技会場は、北京地区・延慶地区・張家口地区の 3 つのエリアに設置されました。北京地区 (北京市内の中心地) では開幕式や氷上競技が行われ、延慶地区 (北京市延慶区) ではアルペンスキーやソリ競技が行われました。また、張家口地区 (河北省張家口市) ではノルディック複合などの雪上競技が開催されました。2022 年 9 月に延慶地区のソリ競技施設を視察しましたので、以下ではその様子をレポートします。

### 延慶区・延慶オリンピック公園の概要

延慶区は北京市西北部に位置し、故宮が位置する北京市中心部からバスで約 2 時間の距離にあります。世界文化遺産である八達嶺長城や龍慶峡という深谷が人気の観光スポットが点在するエリアです。

ソリ競技が行われた「延慶オリンピック・パラリンピッ

ク公園 (延慶オリンピック公園)」は 2022 年 5 月 1 日に正式オープンしました。ゼロコロナ政策の影響で閉鎖や開閉を繰り返しながら、一般観光客を受け入れ始めたのは同年 7 月頃からです。現在は中国国内で一般的なメッセージングアプリである WeChat 内に公式ミニプログラムが開設され、事前の入園予約やチケット購入を行うことができます。入園チケットは平日 80 元 (約 1,600 円、1 元 = 20 円)・休日 100 元 (約 2,000 円)/1 名となっており、アルペンスキー競技施設を参観する場合は、ロープウェイを利用するため往復搭乗券として追加で 280 元 (約 5,600 円)/1 名が必要です。外国人の場合は身分証明書となるパスポートを持参して入園します。

延慶オリンピック公園の主な見どころは「延慶冬季オリパラ展示センター (延慶冬奥展示中心)」、「国家スライディングセンター (国家雪車滑雪中心)」、「国家アルペンスキーセンター (国家高山滑雪中心)」、「選手村 (延慶冬奥村)」です。視察当日は天候の影響でロープウェイが利用できなかったため、本稿では延慶冬奥展示中心・国家雪車滑雪中心・延慶冬奥村の 3 つを紹介します。



延慶オリンピック公園の全貌 (右下: 延慶冬奥村、右上山頂: アルペンスキー競技会場、左中部: ソリ競技会場)

### 延慶冬奥展示中心

延慶オリンピック公園の各種競技コースおよび選手村が完成するまでの軌跡などが展示されている 1 階建ての展示



館です。館内では、延慶オリンピック園區の概要紹介のほか、2022 冬季オリパラ開催地の決定から本番に至るまでの道のりや競技会場の設営・運営工夫に関する紹介展示パネルが設置されていました。たとえば、雪上競技においては雪面の厚さや固さに厳格な要求があることから、オリパラ期間は 170 台の造雪機と 27 台の圧雪機をフル稼働させ、約 5,580 万㎡の造雪と 55 万㎡の圧雪を実施した、雪の平均深さは 2m を維持するようにしたといったエピソードが記載されていました。



延慶冬奥展示中心の外観

## 国家雪車滑雪中心

ソリ競技施設である「国家雪車滑雪中心」へは、延慶冬奥園區の入口となる延慶冬奥村から園區内専用バスに乗り、10 分程で競技スタート地点に到着します。2022 北京冬季オリパラのために建設された同センターの建築面積は約 6 万㎡、コースは全長約 1.9km、垂直落差は 120m 以上となっており、世界で 17 番目、アジアで 3 番目、中国国内で初となるソリ競技専用競技施設です。大会期間は同施設でリュージュ、スケルトン、ボブスレーの試合が行われました。

施設にはボブスレーとスケルトンの体験コーナーがあり、実際に使用された中国チームのボブスレーなどに



スタート地点からコースの上を歩いて散策できます

入ってアスリートの体勢などを体感できるようになっていました。また、実際に使われたソリ競技のコースを歩くことができるようになっており、スタート地点から 40 分程で麓まで戻れるようになっています。散策時は途中で表彰台や観戦席の様子を見学することもできます。

## 延慶冬奥村

最後に、選手村として活用された「延慶冬奥村」内の宿泊施設をご紹介します。現在はリゾートホテルとして一般開放されており、4 人部屋 1 泊 1,000 元 (約 2 万円) の価格から宿泊することができます。2022 北京冬季オリパラ期間中は約 1,430 名の選手・チーム関係者が滞在し、「山林の中の会場・生態環境に配慮した冬季五輪」をコンセプトにデザインされた空間は低階層で高密度な「山村」式建築を採用しているといいます。デジタル技術の活用も進んでおり、ベッドはリモコン操作で高さを調整できるほか、中国メディアの報道によると、就寝時にいびきをかくと自動で頭の角度を調整する「スマートベッド」仕様になっていたり、大会期間中はドアの開閉も指紋認証で行えたそうです。中国が取り組む「環境保全」や「デジタル技術活用」の様子を国際社会にアピールする動きがうかがえました。



イタリアチームが宿泊した部屋を視察。リモコン操作を体験する参観者

## おわりに

クレア北京事務所では今後も機会を見つけて 2022 北京冬季オリパラ競技会場施設のレガシー活用の様子を調査し、本誌を活用してご紹介したいと考えています。2023 年 1 月 8 日に入国隔離制度撤廃へと舵を切った中国。自治体の皆様が中国へ各種施設の視察に訪れる際は、アテンドなどのサポート役としてクレア北京事務所をぜひご活用いただければ幸いです。